

アントレ・レーベルからCDデビューした演奏家たち集結!!
(1999~2009リリース)

Entrée

アントレ古楽コレクションズCD 創設10周年記念
ガラ・コンサート

Gala Concert



原 雅巳
(ソプラノ)



永田 育子
(ルネサンス・リュート)



岡田 龍之介
(チェンバロ)



田中せい子 &
リコーダー
ダニエレ・ブラジエッティ
リコーダー

[前半]

原 雅巳(ソプラノ) & 永田 育子(ルネサンス・リュート)

岡田 龍之介(チェンバロ)

田中せい子(リコーダー) & ダニエレ・ブラジエッティ(リコーダー)

平井み帆(チェンバロ)

三宮正満(オーボエ) & 水永牧子(チェンバロ)



平井み帆
(チェンバロ)



三宮正満
(オーボエ)

[後半]

品川 聖(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

水永牧子(チェンバロ)

前田りり子(フラウト・トラヴェルソ) & 平井み帆(チェンバロ)

芝崎久美子(チェンバロ)

東京リコーダーオーケストラ



品川 聖
(ヴィオラ・ダ・ガンバ)



水永牧子
(チェンバロ)



前田りり子
(フラウト・トラヴェルソ)



芝崎久美子
(チェンバロ)



東京リコーダーオーケストラ

2010 1/14(木) 19:00 開演
18:00 開場

日本大学カザルスホール

主催:アントレ編集部 共催:プレーンミュージック 後援:ベルギー王国大使館/東京古典楽器センター 協力:久保田チェンバロ工房

§ 原雅巳 (ソプラノ) & 永田斉子 (ルネサンス・リュート)

- P. ゲドロン (c. 1570-1619/20) : 何と 勝ち誇った愛の神がまたもや / ため息はやめなさい
 E. ムリニエ (c. 1600-c. 69) : わが眼よ いまこそ 泣くとき

パリのサロンを夜毎にいろどった華麗な晩餐会、舞踏会、そして演奏会。髪を高く結び、豪華な宝石や大きく膨らませたドレスを纏った貴婦人たちが、優雅な羽扇で自らに風を送りながら、エスプリの効いた会話で繰り広げる恋の鞘当。こうした世界に自然に入り込み、宮廷の生活を彩るものとして歌われたエール・ド・クール。本当に音楽を愛する人たちが自分のために、あるいは限られた親しい人たちのために演奏した音楽。単純な旋律の中に様々なおもいが渦巻く。涙、ため息、かき乱される胸、叫びをあげる心。ふと漏れる吐息に耳を傾けてくれ、消え入るような囁きにそっと応えてくれる、そんなリュートとのやり取りに魅せられ続けている。今宵のつづやきにはどんな旋律が寄り添ってくれるだろうか。

§ 岡田龍之介 (チェンバロ)

- H. パーセル (1659-95) : グラウンド ハ短調 / L. クープラン (c. 1626-61) : バヴァーヌ 嬰ハ短調

グラウンド (低音の旋律が反復される変奏曲の一種) はパーセルが得意とした形式だが鍵盤作品はごく少ない。が、中でも本日演奏するハ短調のものは、短いながら歌心に溢れ、人の心に響く不思議な魅力をもっているように思う。初めてこの曲を聴いたのはサーストン・ダートによるクラヴィコードの演奏であったが、その鄙びた味わいの中に何とも言えぬ温もりのようなものが感じられたのを、今でも鮮明に思い出す。

ルイ・クープランのバヴァーヌも非常に強い印象を与えられた作品のひとつで、最初に耳にした瞬間、これはきっと追悼曲に違いないと直感した。案の定、ルイの父シャルルが没した折りに作曲されたらしいことが判明したが、それにしても極端に切り詰められた音の動きと響きの持続だけで、これほどの深さ、奥行きを描出できるとは… 曲の荘厳な雰囲気表現するには到底及ばぬながら、自分なりのイメージを伝えることができれば、と思う。

§ 田中せい子 (リコーダー) & ダニエレ・ブラジエッティ (リコーダー)

- N. ジャイルズ (c. 1558-1634) : 主よ、あなたを信じていた
 R. シCHEDリン (1932-) : 遠方からの音楽 (1996) *Sostenuto cantabile - Allegretto ritmico*

イギリス・ルネサンスの作曲家、ジャイルズの《主よ、あなたを信じていた》は当時の最も前衛的なレパートリーと言えるだろう。極端な比率を用いた拍子構成により、曲の出だしと終わり以外は2声部の拍子が全く異なっている。拍子が違うということは、音を置くタイミングが相手とかみ合わないということになるが、曲に一貫して存在する拍節(ビート)だけは共通なので、奏者はそれのみを頼りに吹き進む。二者間のずれ具合が正確であればあるほど、同じ拍子に戻った時にピタリと音が重なり、拍子感の対比が最大限に引き出される。

シCHEDリンの《遠方からの音楽》はバスリコーダーの2重奏曲で、1996年にミュンヘンで初演された。バスという楽器のもつ特性をよく生かした作品で、1楽章では「遠方」という言葉を連想させる静かなメロディーが用いられ、2楽章ではスラブ風ダンスのリズムが、指穴を叩く打楽器的な奏法や硬いタンギングによって表現されている。

§ 平井み帆 (チェンバロ)

- G. F. ヘンデル (1685-1759) : 「組曲第3番 二短調 HWV428」より、エアと5つの変奏曲

ドイツに生まれ、イタリアで学び、イギリスに帰化したヘンデル。その名声ゆえ、彼の鍵盤楽器のための作品は、不正確な手校譜や海賊版で出回るようになる。これを憂えたヘンデルは1720年、自身の校訂のもとに『クラヴサン曲集』を出版した。《エアと5つの変奏》は、その中の「組曲第3番 二短調」に含まれている。エアは、コレリ風複雑な装飾で飾られている。曲の骨組みとなっている和声進行は、ヘンデルのお気に入りであったらしく、同じ素材を用いて《アリアと7つの変奏》も作っている。私がこの曲に出会ったのは、オランダ留学の1年目、もう15年も前になる。大好きな曲で、その後ずっと弾き続けてきた。国際人ヘンデルによって作られたこの作品は、その時々で、イタリア的な、イギリス的な、ドイツ的な、あるいはフランス的な様々な表情を見せてくれる。それはまた、私自身の鏡にもなっている。さて今日は、どんな姿を見せてくれるのだろうか。

§ 三宮正満 (オーボエ) & 水永牧子 (チェンバロ)

- J. S. バッハ (1685-1750) : オーボエとオブリガート・チェンバロのためのソナタ 変ホ長調 BWV1031
Allegro moderato - Siciliana - Allegro

この作品はバッハの息子カール・フィリップ・エマヌエル (1714-88) の遺産の中から、エマヌエル自身の手によって「J.S. バッハによる」と書かれた手稿譜が見つかったことにより存在が世に知られるようになったもので、以来「大バッハ」ことゼバスティアンの作品とされてきた。が、その後の研究でエマヌエル自身の、あるいは第三者の作品であるとの疑いがたてられ、新バッハ全集(第6部第3巻、1963)からは姿を消すことになった。しかしながら、1978年にはアメリカの音楽学者マーシャルによって、ゼバスティアンの作であるとする説が提起されて以来、ここに再び真偽問題が浮上し、今日なお両陣営に分かれて研究が進められているのが現状である。長いチェンバロの独奏部をもつ第1楽章、たおやかに歌うシチリアーナ、古典派ソナタ形式の萌芽が見られるアレグロの3つの楽章から構成される。(CDブックレットより)

§ 品川 聖 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)

C. F. アーベル (1723-87) : 「ヴィオラ・ダ・ガンバのための27の小品」より、WKO 205, 209, 208 二短調

アーベルの生涯は、バロック時代の終焉すなわちガンバとの訣別の時期に重なる。父クリスティアン・フェルディナントは名ガンバ奏者で、ケーテン時代のバッハと親交を深めた。その地でカール・フリードリヒ・アーベルは生まれ、彼自身バッハ家と終生関わりをもつことになる。すなわちライブツィヒでは大バッハに学び、ドレスデンではその息子、長男フリーデマンと共に過ごし、1759年にロンドンへ渡ってからは、末息子クリスティアンと協力して、演奏会を企画したのである。そのような彼にとって、ガンバは自分の楽器であり、本日の演奏曲目3曲を含む27曲の小品(1770年頃)をはじめとして、この楽器のための名曲を残している。バロック時代に好まれた楽器の上に、古典派時代の到来を感じさせる音遣いが乗せられ、楽しく聴ける作品に仕上がっている。なお本日は、調性やテンポ、動機等を考慮しつつ、3つの小曲を3楽章構成の作品であるかのように組み合わせで演奏する。(ソロ・Ⅲ プログラムノートより)

§ 水永牧子 (チェンバロ)

J.-B.A. フォルクレ (1699-1782) : 「第4組曲」より、マレツラ、サンシー、パッシーの鐘、ラトゥール

父アントワーヌ・フォルクレが、ヴィオラ・ダ・ガンバのために作曲した作品集を、息子ジャン=バティストが『クラヴサン曲集』として編曲して出版した。本日演奏するのは、その第4組曲の作品。この親子は、どちらもガンバの名手で、ヴェルサイユでは有名だった。が、とんでもないエピソードが残っている。父は、息子が20歳の時に牢獄に閉じ込め、また息子の才能に嫉妬して、彼を国外から追放しようとした…という。父の狂気と残酷性に満ちた性格は、音楽にも現れており、怪しい魅力をもつ。《マレツラ》はヴァイオリン奏者の名。1745年にパリでテレマンの四重奏曲を初演した。《サンシー》の意味は不明。《パッシーの鐘》のパッシーとは村の名前。水と景色が美しい場所として有名。教会のグロッケン響きが、このテーマのメロディーになっているが、何やら不気味である。《ラトゥール》はパステル画家の名前。

§ 前田りり子 (フラウト・トラヴェルソ) & 平井み帆 (チェンバロ)

G. F. ヘンデル (1685-1759) : ハレ・ソナタ第3番 口短調 HWV376 *Adagio - Allegro - Largo - Allegro*

ハレ・ソナタと呼ばれるフルート・ソナタは3曲ある。1730年にロンドンで出版された曲集に含まれており、ヘンデルが幼少期を過ごしたハレで書いたものと言われていたが、それを裏付ける証拠はない。出版社のウォルシュが他の楽器のために書かれたヘンデルの作品をフルート用に編曲した可能性が高いが、本日演奏する第3番は原曲が見つかっておらず真偽は謎のままである。著作権法が整備されていなかった18世紀、大作曲家の名を騙って出版された曲、真偽が疑わしい曲の例は枚挙にいとまがない。近年の研究によって偽物だと断定され急に演奏されなくなった曲も多々あるが、偽物には価値がないのだろうか。やっぱりいいものはいいし、好きなものは好きである。ヘンデルの香りがしっかりとたどよい、コンパクトだが身の詰まったこの曲が私は好きである。純粋に音と向き合いその感動を皆さんと共有できれば幸いである。

§ 芝崎久美子 (チェンバロ)

D. スカルラッティ (1685-1757) : ソナタ K. 3 イ短調, K. 87 口短調, K. 253 変ホ長調

祝・アントレCD10周年! 新春のおめでたいコンサートにドメニコ・スカルラッティのソナタを3曲選んでみた。K.3は、ギターをかき鳴らすような音型と疾走するメロディーが交錯する魅力的な曲。私の大好きなK.87は、郷愁を誘う味わい深いカンタービレ。K.253はさながら音の万華鏡、チェンバロのゴージャスな響きが生かされた作品である。スカルラッティの残した多くの鍵盤楽曲はどれも大変個性的で、当時としては革新的手法が随所に見られる。彼の作品は「イタリア・バロックの伝統とイベリア半島の民族音楽の融合」とも言われている。そして何より、弾き手を楽しませてくれる遊び心がいっぱい! その独創的な世界が、今日なお私たちを魅了している。

§ 東京リコーダーオーケストラ

指揮: 金子健治, コンサート・マスター: 安井 敬

安井マリ, 渡辺清美, 庄司祐子, 福岡 恵, 宍倉法子, 松浦孝成, 河村理恵子, 平嶋淳摩, 味澤明子, 浅井 愛, 細岡ゆき, 北村正彦

J. S. バッハ (1685-1750) / 編曲: 安井 敬 & 金子健治: 前奏曲とフーガ ハ長調 BWV531

オルガンは、リコーダーと発音原理が同じであるため、その作品は多くの合奏団によって編曲され重要なレパートリーとなっている。今回演奏するBWV531の《前奏曲とフーガ》は、作曲家10代後半から20代初頭の多感な時期に書かれている。アルンシュタットの教会オルガニストに任命され、金銭的には何不自由ない生活を手に入れながらも、音楽的には満たされないものを感じ、多くのトラブルを抱えていた時期であり、4週間の休暇を申し出て、手本にしていたブクステフーデの演奏を直接聴くために、遠く離れたリュベックに旅をしたことは有名な話である。結果的にこの休暇が16週間に延びたことからして、この旅で将来を決定づける大きな衝撃を受けたことは確実であろう。ブクステフーデを筆頭とする北ドイツ楽派特有の重く力強い作風とは正反対の、明るく軽快なベダルのパッセージから始まるユニークな作品である。

※曲目解説は各演奏者による(一部を除く)

チェンバロ提供・調律: 久保田チェンバロ工房

原 雅巳 (ソプラノ) Masami Hara

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院独唱科修了。渡仏。オルレア
ン・コンセルヴァトワール、ジュネーヴ・コンセルヴァトワールを修了。声楽、
室内楽、バロック・ジュスチャー、朗唱法を学ぶ。帰国後、フランス・ルネサ
ンス、バロック音楽を中心に演奏活動を行う。宮廷歌曲のほか、カンブラ、モ
ンテクレール、クレランポー、ラモー等のカンタータの演奏は多数に及ぶ。
CD『ふらんすの恋歌』(アントレ)、「ラ・フェート・ギャラント」とCD『パリの
悦楽』(コジマ)をリリース。また、日本ヘンデル協会においてジュスチャー
研究会を主催し、演技・歌唱指導を行う。協会の主催する演奏会の監修及び
オペラ公演の演出を行い、これまでにヘンデルのオペラ「リナルド」「セルセ」
『アグリッピーナ』『パストール・フィードー』等を演出する。

永田 斉子 (ルネサンス・リュート) Seiko Nagata

国際基督教大学卒業、フランス国立ストラスブール音楽院古楽科修了。今村
奏典、B.フィッヒン、左近匠介、音楽学を金澤正剛の各氏に師事。ソリスト、
アンサンブルのメンバーとして演奏活動を行うほか、レクチャーコンサート、
美術作品、演劇とのコラボレーションも多い。CD『ふらんすの恋歌』、映画
『耳をすませば』『カムイ外伝』等録音多数。サロンコンサートを企画する「ル
ミエールプロジェ」を主宰。リュート属の一種「月琴」の研究と伝承記録を20
年続け、3年前より演奏家として活動を開始。坂本龍馬の妻、お龍が弾いた楽
器として今年注目され、全国各地でのイベントに参加予定。
公式サイト <http://www.seikonagata.com/>

岡田 龍之介 (チェンバロ) Ryunosuke Okada

慶応義塾大学経済学部、東京藝術大学楽理科卒業、同大学院修了。音楽学を
角倉一朗、チェンバロを有田千代子、渡邊順生の各氏に師事。国内外のバロッ
ク奏者として全国各地で演奏会を行う。とりわけアンサンブルの要となる通奏低音
には定評がある。これまでにアリオン・レクチャーコンサート、栃木「蔵の街」
音楽祭、北とびあ国際音楽祭、目白バ・ロック音楽祭、ソウル国際音楽祭、み
なと・よこはまバロックシリーズ、旭川雪の美術館古楽コンサート、かなざわ
史跡コンサート、NHK-FM等に出演。第13回及び23回古楽コンクール(山
梨)、チェンバロ部門審査員。2003年にリリースされたソロCD『銀色の響き』
(レコード芸術準特選盤)をはじめ、これまでに7枚のCDがある。古楽アンサ
ンブル「ムジカ・レセルヴァータ」主宰。現在、洗足学園音楽大学、都留音楽
祭各講師。鶴巣FM音楽番組「クラシックの散歩道」メイン・パーソナリティ。

田中 せい子 (リコーダー) Seiko Tanaka

幼少よりピアノ、11歳よりリコーダーを専門的に始め、上野学園中学、高校
リコーダー科、同大学器楽科卒業。島田暁子、多田逸郎、山岡重治の各氏に師
事。アムステルダム・スヴェーリンク音楽院にてW.ファン・ハウヴェ氏に師事。
教授者及び演奏家ディプロマを取得し同音楽院を卒業。在学中よりヨーロッパ
各地及び日本にて多くのコンサートを行った。現在、ミラノ音楽院リコーダー
科講師。著書に『リコーダーのタンギング』(アントレ)がある。

ダニエレ・ブラジエッティ (リコーダー) Daniele Bragetti

イタリア、ジェノヴァ生まれ。1985年ミラノ市立音楽院卒業。86年よりア
ムステルダム・スヴェーリンク音楽院に留学し、91年ディプロマを得て卒業。
リコーダーをN.スターン、M.ミーゼン、K.ブッケ、J.ファン・ヴィンガーデン
の各氏に師事。ヨーロッパ各地、日本にて幅広く演奏活動を行う。現在、ミラ
ノ国際音楽アカデミー講師としてリコーダー、古楽装飾法を教えるほか、ミラ
ノ音楽院リコーダー科講師を務める。

田中、ブラジエッティは、91年よりデュオ活動を始め、デュオ、アンサンブル
、オーケストラのメンバーとしてヨーロッパ及び日本で多くのコンサート
を行っている。これまでにCD『デュオ』(アントレ)、『テレマン：デュエット集』
(マーキュリー)をリリース。また東京にて「ストゥディオ・フォンテガラー」
を設立、定期的に来日し活発に教育活動を展開している。

平井 み帆 (チェンバロ) Miho Hirai

桐朋学園大学ピアノ科卒業。同大学研究科、デン・ハーグ王立音楽院チェン
バロ専攻修了。チェンバロを有田千代子、J.オッホの両氏に師事。現在、日本
各地でコンサート、レコーディング、テレビ、NHK-FMの出演等、活発な演奏
活動を行っている。初のソロCD『アフエッティ・カンターベリ』は「伸縮自
在な呼吸でブレスコルディのインスピレーションを蘇らせる」(レコード芸術、
音楽現代推薦盤)と評され、また、リコーダーの太田光子氏とのデュオCD『イ
タリアへの夢』はレコード芸術特選盤、音楽現代推薦盤に選ばれた。「ラ・フ
ェート・ギャラント」のメンバーとしては、18世紀フランス・バロックをテ
ーマに2枚のCDをリリース。通奏低音奏者としても多くの演奏家と共演、録音
にも参加している。富山古楽セミナー講師を務めるほか、各地で講習会も行
っている。公式サイト http://homepage2.nifty.com/hirai_miho/

三宮 正満 (バロック・オーボエ) Masamitsu San'nomiya

中学時代、バロック・オーボエのサウンドに魅了され、本間正史氏に師事、
その後、モダン・オーボエを本間正史、吉成行蔵、蠟崎耕三の各氏に師事。
1995年武蔵野音楽大学卒業。バロック&クラシカル・オーボエプレーヤーとし
て、ソロ、室内楽、オーケストラを中心に在学中より活動。アンサンブル
「ラ・フォンテーヌ」のメンバーとして97年、古楽コンクール(山梨)最高位、
2000年、ブルージュ国際古楽コンクール第2位受賞。96年より「パッサ・コ
レギウム・ジャパン」-J.S.パッサハ=カンタータ全曲レコーディングプロジェク
トに参加し、数々のオーボエ・オブリガートを演奏。03年ソロCD『ヴィルト
ウオーソ・オーボエ』をリリース。現在「パッサ・コレギウム・ジャパン」及
び「オーケストラ・シンボシオン」首席オーボエ奏者、管楽合奏団「カライド
スコープ」、「ラ・フォンテーヌ」他メンバー。東京藝術大学古楽科講師。

品川 聖 (ヴィオラ・ダ・ガンバ) Hijiri Shinagawa

3歳よりヴァイオリンを始める。1999年桐朋学園大学音楽学部古楽器科(ウ
ィオラ・ダ・ガンバ専攻)卒業後、ベルギーのブリュッセル王立音楽院に留学。
2003年ディプロマを取得し首席で卒業。ヴィオラ・ダ・ガンバを中野哲也、ウ
ィーラント・クイケン各氏に、バロック・ヴァイオリンを若松夏美、寺神戸
亮、シグスヴァルト・クイケン各氏に師事。01年ソロ・デビュー以来、各地
でコンサート活動を展開。05年よりロバハウスにて「ヴィオラの魅力」シリー
ズを開始。06年より「J.S.パッサハ：ガンバ&チェンバロ デュオ」コンサートを
継続。07年、初CD『Solo』、09年『Rebirth of Viola da gamba』をリリース。
東京古典楽器センター講師。日本ベルギー学会会員。

水永 牧子 (チェンバロ) Makiko Mizunaga

桐朋学園大学古楽器科卒業。フライブルク音楽大学大学院を修了し、同大学
のチェンバリストとして初めてドイツ国家ソリストディプロマを取得。1999年
モントリオール国際チェンバロコンクール第2位及び最優秀賞受賞。2001年東
京にてソロリサイタル・デビュー。02年『D.スカルラッティ・ソナタ集』(ア
ントレ)、03年『夢見る雨』(ピクター)、06年『イングリッシュ・ガーデン』
(ピクター)の3枚のソロアルバムをリリース、いずれも高い評価を得ている。
ソロ以外にもアンサンブル「ラ・フォンテーヌ」のメンバーとして活躍。ピア
ノを坂井由紀子、チェンバロを故鍋島元子、R.ヒル、M.ペーリンガー、作曲を
三瀬和朗、橋本礼子、オルガンを水野均、C.シュノールの各氏に師事。

前田 りり子 (フラウト・トラヴェルソ) Liiko Maeda

全日本学生音楽コンクール西日本大会フルート部門高校の部第1位入賞。そ
の後バロックフルートに転向して有田正広氏に師事し、桐朋学園大学古楽器科
に進学。その後、オランダのデン・ハーグ王立音楽院に留学し2000年に同大学
院を卒業。バルトルド・クイケン氏に師事。1996年、古楽コンクール(山梨)
にて第1位入賞。99年、ブルージュ国際古楽コンクールで第2位入賞。「パッ
ハ・コレギウム・ジャパン」、「ラ・フェート・ギャラント」、「ソフィオ・アル
モニコ」等メンバーとして国内外で演奏・レコーディング活動をしているほか、
レクチャー、執筆活動も幅広く行っている。ソロCD3枚、著書に『フルート
の肖像』がある。現在、音楽教室「ダ・カーポ」、東京藝術大学古楽科講師。
公式サイト「りり子の部屋」<http://www2.odn.ne.jp/~cco69970/liiko.html>

芝崎 久美子 (チェンバロ) Kumiko Shibasaki

国立音楽大学器楽学科及び桐朋学園大学古楽器科研究科を卒業。第3回古楽
コンクール(山梨)最高位入賞、第1回栃木「蔵の街」音楽祭賞受賞。1991年
よりオランダのアムステルダム音楽院に留学し、チェンバロをG.レオンハルト
氏に師事。2001年度文化庁派遣在外芸術研修員としてイタリアに派遣され、ミ
ラノ国際アカデミーで学ぶと共にベルガモでイタリアのルネサンスオルガンの
研究に従事する。これまでに国内外の音楽祭や演奏会に出演、98年からは独自
のコンサートシリーズ「音楽の花束」を開催。ソロCD『優しき嘆き』のほか
様々なアンサンブルの録音に参加、多彩な即興演奏による通奏低音は高く評価
されている。現在、東京古典楽器センター、桐朋学園芸術短期大学講師。日本
イタリア古楽協会運営委員。

東京リコーダーオーケストラ Tokyo Recorder Orchestra

1985年、全日本リコーダーコンクールにおいて最優秀賞を受賞したメンバ
ーを中心に、在京のソロ、アンサンブルで活躍中のリコーダー奏者が集まり結成
される。わが国はもとより、世界的にも珍しいプロフェッショナルなリコーダ
ーオーケストラとして、大編成によるリコーダー合奏の魅力を追及する。86年
より全国各地でコンサートを開催。88年、日本リコーダー協会より『リコーダ
ー合奏の魅力』、アントレより99年『セビーリヤ』、2003年『トッカータとフ
ーガ』をリリース。03年、台湾にてリコーダー合奏に関するワークショップを
開催、また台北国家音楽院、06年、ソウル「芸術の殿堂」ホールにてコンサ
ートを開催、好評を博す。その他、NHK教育TV「トゥトゥ・アンサンブル」
「歌えリコーダー」への出演、パントマイムとの共演等、幅広く活動している。